

News Letter

毎年、この季節になると思い出すことがあります。数年前、私は六甲山系の山の中でニホンリスに出会いました。突然、「ザカッ ザカッ ザカッ」という音がしたかと思うと、1頭のニホンリスが木の幹を伝って地面に下りてきました。相手は私に全く気づいておらず、目の前で用を足したあと斜面を駆け下りていきました。目が合ったわけでもなく、顔をじっくり見たわけでもなかったのですが、早朝の木漏れ日の中で、小刻みに揺れていた試験管洗のようなふさふさの尾のことが忘れられませんでした。どうやら、一目惚れをしてしまったらしく、「もう一度会いたい」という思いで六甲山に通う日々がこの日から始まりました。

ニホンリスは樹上性で昼行性であるため、比較的姿を見る機会が多い哺乳類です。しかし、残念ながら私の住んでいる西日本では少なく、姿を見かけることは多くありません。特に中国地方以西（四国を除く）のニホンリスは環境庁のレッドデータブック（2002）で「絶滅のおそれのある地域個体群（Lp）」に指定されています。



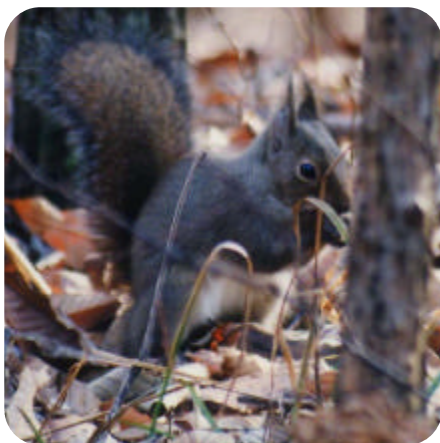
幸い、私が彼（ということにしておきましょう）と出会った林はよく利用する場所であつたらしく、それからも何度か姿を見ることができました。こうなると見ているだけでは物足りなく

なり、何らかのアクションを起こしたくなるものです。後をこっそりつけては見失い、写真を撮ろうとしては失敗し、ということを繰り返しては数少ない成功に頬をゆるめていました。ところが、そうこうしているうちに姿を見かけなくなり、彼とはそれっきりということになりました。

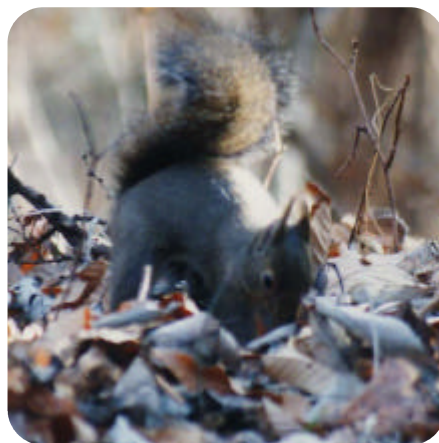
その後、長野県で出会ったニホンリスは、クリの穂を鼻に刺して叫び声を挙げ、クリの実を取り落としては右往左往、えさ台でヒマワリの種を食べては種の殻を鼻にぶら下げる。お世辞にもかっこいいとはいえない奴でしたが、ひいき目もあるからかやっぱり好きになってしまいました。そうそう、冬に備えてオニグルミの実などを貯食しておく働き者な一面も大きなポイントでした。

山の中ではいろいろな出会いがあります。それぞれに思い出もありますが、中でもこのニホンリスとの出会いは特別な思い出があり、褪せることなく鮮明に刻まれています。これからもそんな出会いを楽しみに山へ出かけたいと思っています。

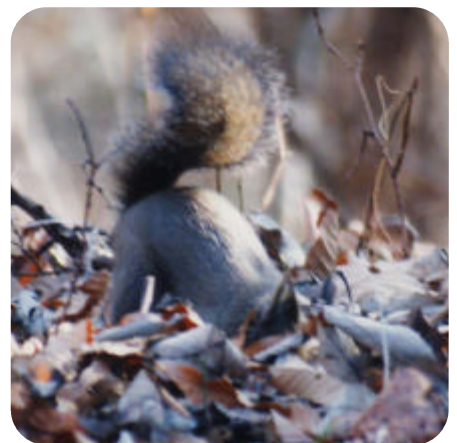
（大阪支社自然環境調査室・藤原 史）



いいもの 見つけた



冬に備えて



貯えなくちゃ

目次

エッセイ	ニホンリスとの出会い	1	エッセイ	中島正雄のつれづれ虫	6
研究紹介	根室半島の植物と植生	2	ある日のフィールドノートから	ライトトラップ	8
マンガ	調査員物語	5			